

平成27年度 第2回千葉県スポーツ推進審議会 議事録

開催日 平成28年3月11日(金)
 時間 15時～16時30分
 会場 千葉県スポーツ科学センター
 3階 第1研修室
 (千葉市稲毛区天台町323)

<出席委員> (敬称略50音順)

荒川 昇 黒川 仁美 高坂 俊介 浪越 一喜 畑佐 耕一郎 花岡 伸和

<オブザーバー>

越川 均 平島 昭一

<出席事務局職員>

千葉県教育庁

健康福祉部 健康づくり支援課 地域健康づくり班
 障害福祉課 地域生活支援班
 高齢者福祉課 生きがい活動推進班
 商工労働部 観光企画課 観光企画室
 県土整備部 公園緑地課 県立公園室
 企画管理部 教育政策課 教育立県推進室
 教育振興部 生涯学習課 学校・家庭・地域連携室
 学校安全保健課 給食班
 体育課

教育次長 梅木 弘之
 主事 蒲生 忠明
 主事 市原 一樹
 主査 伊藤 恭江
 観光推進委員 池田 清則
 副主査 板垣 和子
 主査 岡松 英雄
 副主幹 菅谷 忠由
 指導主事 清水 孝
 課長 山崎 成夫
 副課長 川崎 浩祐
 副主幹 堀切 健一
 副主幹 岩埜 直史
 班長 桐原 孝之
 副主幹 柳生 浩之
 主席指導主事兼班長 牧田 正彦
 指導主事 林 俊則
 指導主事兼班長 新村 浩章
 指導主事兼班長 加藤 俊文
 指導主事 瀧口 正勝
 指導主事 中村 正浩
 指導主事 田口 富一
 指導主事 角田 淳
 指導主事 宮内 博史
 指導主事 堀江 俊介

ちばアクアラインマラソン準備室

同

施設調整班

同

学校体育班

同

競技力向上班

社会体育班

同

同

同

同

同

同

次第

- (1) 開 会
- (2) 挨拶
- (3) 議 事

[報告事項]

- ア 第70回国民体育大会及び第15回全国障害者スポーツ大会について
- イ 平成27年度全国高等学校総合体育大会について
- ウ 平成27年度全国中学校体育大会について
- エ 平成27年度第1回「千葉県スポーツ推進審議会」における委員からの御意見への回答について

[審議事項]

- ア 第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」の点検・評価（平成27年度総括）について
 - イ 平成27年度主要事業実施報告及び今後の展開について
 - (ア) ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト
 - (イ) オリンピック教育
 - (ウ) 東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業
 - ウ 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」の策定について
 - エ 運動部活動を活用した地域との連携について
- (4) その他
 - (5) 閉 会

配布資料

- ・資料1 関連法案等
- ・資料2 報告事項
- ・資料3 審議事項

別添資料

- ・第70回国民体育大会リーフレット
- ・平成27年度「千葉県体育・スポーツ推進計画」の点検・評価報告（暫定版）
- ・ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト2015実施報告書

スポーツ推進審議会 議事録

事務局

本日は御多用のところ、御出席いただきありがとうございます。

会の進行を務めさせていただきます体育課副課長です。どうぞよろしくお願ひします。本審議会への委員の皆様の出席は5名、4名の委員の方から所用のため欠席する旨の申し出がありました。なお、1名の委員からは遅れて出席するとの連絡をいただいております。

それではただ今より、平成27年度、第2回千葉県スポーツ推進審議会を開会いたします。

本審議会の成立につきましては、千葉県スポーツ推進審議会条例第5条第2項に規定されております、「半数以上の出席」と言う条件を満たしておりますので、本審議会は成立いたします。

次に、教育次長より御挨拶を申し上げます。

教育次長

本日は、御多忙のところ、委員の皆様には、平成27年度第2回スポーツ推進審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

先程、会に先立ちまして東日本大震災による犠牲者の方々に黙とうをささげさせていただきました。震災の犠牲者に対し謹んでお悔やみ申し上げます。

また、本県のスポーツの推進に御理解・御協力をいただきますことに、改めて、お礼申し上げます。

震災の時に、その後被災された方々に、スポーツによって元気や勇気が与えられたことも認識されたかと思ひます。被災県であります千葉県で、オリンピック3競技、パラリンピック4競技の幕張メッセでの開催決定を受けて、昨年の10月には、2020年に向けた千葉県戦略の見直しが行われました。県内でのオリンピック・パラリンピック競技の開催は、千葉県の国際的な魅力や知名度を高め、国際交流の推進や将来を担うひとつづくりなどにおいても絶好のチャンスとなります。これを契機に、地域の活性化やスポーツ・文化の振興に着実に結びつけることを目指して、今後、「チーム千葉」として、取組を進めてまいります。

委員の皆様におかれましても、引き続き、それぞれのお立場で、御支援・御協力をお願い申し上げます。

さて、第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」は4年目を終えることとなります。後ほど報告がありますが、「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」では、千葉ロッテマリーンズとの事業を拡大するとともに、新たに千葉ジェッツとの連携事業を開始いたしました。

また、新たな取組として、JOCや関係部局と連携して、1月には船橋市でオリンピック教室を開催いたしました。今後、更にオリンピック・パラリンピックムーブメントの推進を全県的に展開してまいります。

第11次推進計画の最終年度を迎えるに当たり、各事業のこれまでの実績を検証しながら、第12次の「体育・スポーツ推進計画」の策定にも着手してまいります。

本日の審議会では、委員の皆様には、専門的な視点からの御指導・御助言をお願い申し上げます。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

事務局

それでは、議事に入る前に、資料の確認をさせていただきます。

平成27年度第2回千葉県スポーツ推進審議会の次第、名簿、座席表が1部ございます。

「資料1」は、本審議会を開催するにあたって、根拠となる、スポーツ基本法及び千葉県スポーツ推進審議会条例でございます。「資料2」は報告事項をまとめたものです。「資料3」は審議事項をまとめたものです。また、別添資料として、「第70回国民体育大会リーフレット」、「平成27年度千葉県体育・スポーツ推進計画の点検・評価報告（暫定版）」、「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト2015実施報告書」の冊子がございます。過不足がございましたら、事務局にお申し出いただければと思います。

続きまして、議事にうつりますが、議長につきましては、会長をお願いしてよろしいでしょうか。

それでは、会長、よろしくお願いいたします。

議長

それでは、次第に沿って、議事を進行させていただきます。まずは報告事項です。事務局お願ひします。

事務局

報告事項は、担当者から説明させていただきます。はじめは、第70回国民体育大会についてです。それでは、第70回国体・第71回冬季大会の成績報告について、御説明いたします。

お手元の「リーフレット」を御覧ください。本県選手団の成績や活躍の様子をまとめたものでございます。表紙を開いていただきますと、「挑戦は続く」と題した、知事のコメントがございます。

そのあとに、競技別天皇杯1位を獲得したテニス競技から各競技の結果と写真を掲載しております。競技別天皇杯入賞、皇后杯入賞の成績を残した競技名の横には、その順位を記載しております。今大会は、天皇杯・皇后杯ともに、12競技が入賞いたしました。各競技の詳細については、リーフレットを御覧ください。

最終ページを御覧ください。上段には、2巡目国体のスタートとなる第43回京都大会からの本県の総合成績を掲載しております。昨年度連続入賞を逃した天皇杯で入賞を奪還し、皇后杯では7年連続入賞を達成しました。来年度の岩手国体では天皇杯で連続入賞、皇后杯では8年連続入賞を目標に、さらなる競技力の向上を目指してまいります。簡単ですが以上で説明を終わります。

事務局

第15回全国障害者スポーツ大会についてです。資料2の1ページを御覧ください。

平成27年10月24日の土曜日から26日の月曜日にかけて、和歌山県において、第15回全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」が開催されました。2ページに参考として、本年度の大会概要を記載しました。千葉県ではこの大会に選手69名、役員42名、総勢111名の選手団を派遣しました。

1ページにお戻りください。1の本県選手団の成績ですが本県開催の千葉大会を除いて過去最多の65個の金メダルを獲得し、東京都に次ぐ、全国第2位の成績を収めました。

2の大会記録を御覧ください。

陸上競技5種目、水泳競技7種目、計12個の大会新記録が樹立され、個人競技参加54選手の半数以上の41名の方が金メダルを獲得するという、すばらしい結果を残しました。

4として、来年度の県大会及び全国大会の予定を掲載しております。来年度は、岩手県で第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」が、平成28年10月22日（土）から24日（月）までの3日間で開催されます。この全国大会を目指し、千葉県障害者スポーツ大会において白熱したプレイが各競技で繰り広げられますので、ぜひ、御期待いただければと思います。

事務局

続きまして「平成27年度全国高等学校総合体育大会」について御説明いたします。

資料2の3ページを御覧ください。平成27年度の「全国高等学校総合体育大会」は、「風になれ 今青春が走り出す」のスローガンのもと、7月28日から8月20日まで和歌山県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県の近畿6府県で、開催されました。本県からは、30競技に74校、744名の選手が出場しました。主な成績は、団体種目ではソフトボール女子で木更津総合高校が、優勝いたしました。個人では、陸上競技・空手道・カヌー・水泳で、5種目4名が優勝しました。団体・個人を合わせた全体の成績は、優勝6、準優勝12、第3位14、ベストエイト57で、入賞総数は、過去最高だった昨年の「煌めく青春 南関東総体2014」から減りましたが、89となりました。秋に開催された、「2015紀の国 わかやま国体」にも、この中の多くの選手が出場し、天皇杯・皇后杯の入賞に大いに貢献しました。

次に、平成27年度全国中学校体育大会についてです。全国中学校体育大会ですが、今年度も個人種目での活躍が目立ちました。特に陸上・水泳・体操・新体操では優勝者・準優勝者を多く輩出し、2020年の東京オリンピックに向けて将来が楽しみな選手が育っています。

また、剣道男子の東京学館浦安中、新体操の昭和学院中が第3位、12月に行われた全国中学校駅伝大会では、男子の鎌ヶ谷五中が第3位に入りました。団体・個人を合わせた全体の成績は、優勝5、準優勝8、ベストフォー13となりました。来年度は、団体種目での奮起に期待しています。

事務局

続いて、第1回目の審議会で、委員の方からいただいた御意見に関して、説明をさせていただきます。

資料5ページを御覧ください。いただいた御意見については、その内容により資料のとおり、まとめさせていただきます。最初に（1）ちば夢チャレンジかなえ隊の活動や総合型地域スポーツクラブの認知度を

高めるため、学校との連携が必要ではないかとの、御意見への対応です。

今年度、実施しております体育科主任研修会をはじめとする各種研修会を通して、周知を図りました。また、総合型地域スポーツクラブを含む地域の皆さんと学校運動部活動が連携する、新たな事業の展開を考えています。これにつきましては、協議事項の中で詳しく説明させていただきます。

次に（２）県民の運動・スポーツに関するアンケート調査について、質問項目の追加や変更の御意見を複数いただきました。これについては、現計画においては、質問項目の追加・変更は行わず、次期計画において、見直しに取り組んでまいります。

（３）県ホームページへの御意見です。これについては、施設関連のトップページに千葉県公立社会体育施設一覧を掲載するなど、ホームページの工夫、改善を行いました。まだまだ、不十分かとは思いますが、今後も関係部局等との連携を図りながら、県民の利便性の向上に取り組んでまいります。

（４）の①、障害者スポーツの組織整備の促進については、障害福祉課が今年度から取り組んでいる「障害者スポーツ選手掘り起こし事業」を展開する中で、関係者と一緒に計画を練ったり、新たな協力者を募ったりして、少しずつ仲間を増やしているのが現状です。組織整備の第１歩を踏み出したところ です。

②の障害者スポーツの普及については、政策企画課が、来年度、県内開催のパラリンピック４競技の普及・振興のイベントを実施します。具体的な内容を現在、検討しているとのこと です。

なお、千葉県県障がい者スポーツ協会が自主事業として行う出前事業の中でも、相手方のニーズに合わせて、パラリンピック競技についての教室等が行われております。

③の特別強化指定選手のPR方法については、ホームページや報道機関を活用し広報に努めています。次年度に向けては、今以上に戦略的に取組むことを検討しています。

委員 ただいま報告事項を一括してお願いしました。委員の皆さんから何かございますか。

議長 私から、一つ伺います。４の障害者スポーツの組織整備についての整備というのは協会を作るということでよいのですか。

事務局 組織の整備とは、一番理想なのは各競技団体が独立して活動できるような環境を整備することです。現状におきましては組織体制が脆弱な状態であり、各団体において千葉県障がい者スポーツ協会と連携してサポートをすることに努めております。

議長 そうすると、全体をまとめる協会はあるのだが、競技ごとになるとないということですか。ここにある、９競技１０団体というのは、もう設立された数字ですか。

事務局 設立の意味ではなく体験会が行われたという数字であります。

議長 わかりました。それでは、審議事項にうつります。第１１次「千葉県体育・スポーツ推進計画」の点検・評価（平成２７年度総括）について、事務局お願いします。

事務局 プロジェクターを使って説明いたしますので、大変恐縮ではございますが、会長、副会長はお席の移動をお願いいたします。それでは、座って説明をさせていただきます。

ここでは、スライドを使って説明いたしますが、資料３の１ページから３ページには、スライドの内容を記載してございます。また、資料３の最後に、A３サイズでまとめたもの添えさせていただきました。なお、各政策・事業の実績の詳細につきましては、（別添資料）点検評価報告書に掲載しております。３月末まで事業がありますので、暫定版とさせていただきます。

まずは、第１１次「体育・スポーツ推進計画」の点検評価、平成２７年度総括についてです。資料３を御覧ください。

第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」には、5つの柱について、施策ごとに指標が掲げられています。

この表は、5つの柱の指標と、「全国体力・運動能力調査」や、「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」などの結果をもとに、その指標の目標達成状況をまとめたものです。

それでは、柱ごとに、上位指標・下位指標の達成状況及び総括について、説明させていただきます。柱1の「生涯スポーツの推進」では、成人の週1回以上のスポーツ実施率を指標とし、60%を目標に掲げています。今年度は、45.8%と、少し向上しました。

下位指標の達成状況を見てみると、(1)の「健康・体力づくりを意識したスポーツ活動の推進」では、世代別のスポーツ実施率において、20～50歳代は、目標値に達していませんが、60歳以上は、目標値を超えております。また、(2)の「高齢者のスポーツの推進」では、60歳以上の総合型地域スポーツクラブ会員数は、経年増加しており、目標を達成しております。さらに、(3)「障害のある人のスポーツの推進」では、障害者スポーツ指導員養成講習会の参加者数については、累計で428人となっており、目標値を超えております。

柱1の「生涯スポーツの推進」を総括しますと、現状としましては、成人のスポーツ実施率は、今年度は増加傾向が見られましたが、平成24年度以降は45%前後で、横ばい傾向が続いており、60%という目標値の達成は難しい状況です。今後は、20歳代～50歳代の子育て世代や働き世代のスポーツ実施率が依然として低いことを踏まえ、親子体験イベント等の事業を推進し、運動の場や機会、きっかけを提供していきます。

次に、柱2の「子どもの体力向上と体育の充実」では、小学生における新体力テスト平均点を指標とし、50点を目標に掲げています。今年度は、49.3点と、やや低下しました。

下位指標の達成状況です。

(1)の「幼児期における体力づくりの推進」において、平日、休日ともに、「家庭における1時間以上の運動遊びをする割合」が低下しております。しかし、(2)の「教科体育の充実」では、「体育の授業が「好き」と答える割合」は、増加し、目標値に近づいております。

(4)の「運動部活動の充実」でも、中学・高校ともに、運動部活動加入率が増加しております。

また、(3)の「運動能力証の交付率」や、(5)の「朝食欠食率」は、目標には達していませんが、横ばい、もしくは改善の傾向が見られます。

柱2の「子どもの体力向上と体育の充実」を総括しますと、平成24年度までは、目標値に近い49.7点へと順調な増加傾向が見られました。しかし、そこで高止まりし、それ以降は、横ばいか、やや低下傾向が見られます。

今後も、「体育授業が好き」と答える割合が増えるよう、授業改善や工夫に取り組み、教科体育を更に充実させることで、子どもの体力向上を図っていきます。

また、新体力テストの結果を精査してみると、握力・投力種目で低下傾向にあることを踏まえ、対策を講じてまいります。

続きまして、柱3の「競技力の向上」では、国民体育大会での都道府県対抗順位を指標とし、8位以内を目標に掲げています。今年度は、男女総合では7位、女子総合では、6位となり、目標を達成しました。

下位指標の達成状況を見てみると、(1)の「選手の育成・強化、指導者の養成・確保」において、国民体育大会における少年種別順位が7位となりました。目標である4位以内には達していませんが、昨年度より順位を1つ上げました。少年種別の活躍が、入賞に大きく貢献いたしました。

(3)の「スポーツ医・科学の積極的な活用」において、「サポート事業活用団体数」が、本年度32団体と増加しましたが、目標を達成するには、競技団体への啓発活動をさらに進める必要があると考えております。

柱3の「競技力の向上」を総括しますと、昨年度は入賞を逃したものの、今年度は、入賞を果たし、目標を達成しました。千葉県体の成果が一過性に終わることなく、着実に根付いているものと捉えています。今後は、競技力向上推進本部事業の充実を図ることにより、本県の競技力が恒常的にレベルアップすることを目指します。

続きまして、柱4の「スポーツ環境の整備」では、県内総合型地域スポーツクラブへ加入している会員数を指標とし、22,000人を目標に掲げています。昨年度より1,416人増え、21,480人となり、目標直に近づいております。

下位指標の達成状況です。(3)の「システムづくりの推進」では、クラブ設置率、認知度ともに増加したものの、設置率は目標値に達しておらず、認知度もまだまだ低いと認識しております。

柱4の「スポーツ環境の整備」の総括をしますと、今年度は4年ぶり東金市にクラブが設立されました。現在、33市町、77クラブに増え、会員数も増加しています。さらに、未設置の山武市、鎌ヶ谷市、茂原市、多古町、横芝光町と設立に向けた話し合いが行われており、「概ね順調にすすんでいる」と評価しています。

今後も未育成市町村への啓発活動を計画的、継続的に推進していくとともに、県民がいつでも・どこでも・だれとでも・いつまでもスポーツ活動が行える、総合型クラブの良さを体験できる機会や情報提供を行うなどして、クラブの認知度アップに努めていきます。

最後に、柱5の「スポーツを活用した地域の活力づくり」では、県内各地で開催されるスポーツ大会・イベントへの参画意欲の割合を指標とし、今年度は71.4%でした。

下位指標の達成状況です。(1)の「プロスポーツを活用したスポーツの推進」では、プロスポーツの関心度が、高まりました。また、(3)の「国体を契機としたスポーツの拠点づくり」では、地元開催大会の必要性も、高まりました。

柱5の「スポーツを活用した地域の活力づくり」の総括をしますと、県内各地で開催されるスポーツ大会・イベントへの参画意欲は、71.4%で、増加傾向に転じました。今後も、県民の半数以上が、「みる」スポーツへの参画を求めていることを踏まえ、そのニーズに応える事業の推進を目指してまいります。

また、「する」「ささえる」スポーツへ参画したい県民ニーズに応じて、ちばアクアラインマラソン等のスポーツ大会・イベントを開催し、選手だけでなく、ボランティア参加者の開拓・拡大を図ってまいります。

議長 　ただ今の説明について、御意見はございますか。

委員 　(4)の「運動部活動の充実」の加入者数についてですが、高体連の調べにおいても昨年から今年度に増加傾向にあり、部活ではサッカー、陸上競技が目立っています。その次には弓道や登山が増えています。サッカー、陸上についてはメディアによる取り上げ方の影響もあるようで、特に陸上は世界陸上や冬場のマラソン・駅伝などの力によるものも大きいと思います。また、弓道や登山、さらにはダンスやチャ・リーディングなど、勝敗を激しく競わない、もしくは競技性のみを追求しないといった種目に増加傾向があるように思われます。これに関しては本校でも40人、多いところでは100人の部員を有する。分類上運動に入ると加入率はさらに上がります。また、全日制と定時制があり、全日は44.8%ありますが、定時制においては時間・施設・指導者の確保の問題により加入する生徒はどうしても少ない現状にあります。しかし、全体の生徒数は減少の中運動部の参加者数は増えています。平成24年12月に大阪にて運動部活動指導者の体罰による生徒の自殺があり、その影響は翌年の運動部活動の加入が減少傾向になりましたが、その後、体罰に対する国や県の指導によって、現在は増加傾向に転じました。高校体育連盟としては、部活動に取り組む生徒が増えるというのは、いい傾向と考えています。

議長 　その傾向は、千葉県だけですか。全国的に言えることですか。

委員 　そこまでは、分析していないのですが。

議長 　中学校の方はどうですか。

委員 　中学校では、競技人口という点では資料はないのですが、夏にあります県の総合体育大会や秋にあります

す県の新人大会で球技の合同チームが増えています。特に、軟式野球は24チームです。少子化の影響の大きい外房から安房にかけては非常に多いです。逆に都市部は、今までと変わらずできています。柱とは直接関係ありませんが、我々の課題としては、そのようなところがあげられます。

委員 2つあります。1つ目は生涯スポーツの推進、今後の取組で親子体験イベント等を推進していくとありました。これは、我々プロスポーツチームも協力できることです。見るだけでなく、試合後の球場で体験イベントを行うなど、見るだけでなく直接スポーツにふれる機会を増やしていけたらと考えています。

2つ目は、子どもの体力向上と体育の充実なのですが、握力と投力が低下傾向にあるとのことでした。マリーンズも様々な取組をしているのですが、県教委と連携して事業をする他にも、県内58小学校で体育授業の基礎となるような教室を行いました。私も何度か見ているのですが、そもそも投げ方がわからない子どもたちも多いのだなと感じます。我々には、指導のプロがそろっていますので、協力できるところはやっていきたいと思っています。

委員 生涯スポーツということで、働く世代のスポーツ実施率が低いということでした。仕方ないという面もありますが、啓発活動を充実させてほしいです。また、スポーツ医学や科学の活用も増えていないです。今の時代ですから、医学とスポーツの関連「運動しないと病気になる」「いい汗かきましょう」などの啓発活動を充実させるなど、学校を離れたところに力を入れてほしいです。トップレベルだけでなく、全体のレベル、家庭のレベルをあげてほしいです。

議長 事務局、どうですか。

事務局 新しい12次の計画に、頂いた御意見を反映させていきたいと考えております。

議長 それでは、平成27年度主要事業実施報告及び今後の展開について事務局から説明をお願いします。

事務局 平成27年度も多く事業に取り組んでまいりました。本日は、時間の関係がございますので、体育課各班から1つずつ、特に初めての事業や、拡充したものについて事業実施報告及び今後の展開について、担当より説明させていただきます。

事務局 はじめに、推進計画の柱の5、「スポーツを活用した地域の活力づくり」の取組として、昨年度から本格的に事業を開始した、「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」です。

この事業のねらいは、小学生のうちに様々なスポーツを観戦し、卓越したパフォーマンスに触れることで、スポーツへの夢やあこがれを抱けるようにする。キャリア教育体験プログラムに参加し、スポーツを支える活動への興味・関心を高める。家族で観戦することで、親のスポーツへの関心も高め、子育て世代のスポーツ実施率を高めることです。

本年度実施したアンケート結果では、「年に何回かはスタジアムに観戦に行く」割合は、児童生徒で18%、成人では11%となっております。テレビで見たり、ラジオで聞いたりする人を合わせた、スポーツへの関心度は60%あるものの、実際にスタジアムへ来ている人は、その半数程度にとどまっております。一方で、プロスポーツを活用したスポーツ推進における要望では「気軽に観戦できるような環境整備」、「プロ選手による指導」、「学校・施設等への選手訪問」となっております。この結果は、昨年度もほぼ同様となっております。

このような現状をふまえて、気軽に観戦できる環境整備、プロスポーツチームと県民の交流機会の充実を図るため、事業を実施しています。

事業の内容としましては、ホームゲームへの招待と、キャリア教育体験プログラムの提供です。対象は、県内公立及び私立小学校に在学している児童で、保護者とペアで招待しております。また、募集は学

校を通じて行うことで、広く県民に知っていただくとともに、学校関係者にも事業に協力してもらっています。

このようにして、「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の推進を図っていきます。

この事業は、千葉ロッテマリーンズと千葉県教育委員会が共同で、平成26年度から初めて実施したものです。また、今年度より、千葉ジェッツとも連携し、春休みに事業を行うこととなり、現在準備を進めているところです。

夏休みを中心に行った、千葉ロッテマリーンズとの連携事業の様子です。昨年は、8試合に、16,000名の児童を招待して行いました。ことしは、10試合に、20,000組の親子を招待しました。県内45市町村、300校以上から申込があり、10,000名の児童がキャリア教育体験プログラムに参加しました。

これは、「親子でキャッチボール」の様子です。試合開始前のQVCマリンフィールドで、親子でキャッチボールを行いました。

次は、「スタジアム・スタッフ体験」です。スタジアムには、様々な仕事があり、多くの方が働いていることを教わります。また、それぞれの仕事の大変さや、気をつけていること、やりがいなどを説明してもらいました。また、実際に、お客さんが飛ばしたジェット風船を拾う仕事を手伝いました。

これは、「キッズダンス・チャレンジ」の様子です。試合開始直前のスタジアムで、M☆splashと一緒に、大勢のお客さんの前でダンスを披露しました。

参加した学校関係者のアンケートによると、事業のねらいへの賛同、事業全体の満足度は高いものがありました。児童からは、スタジアムで観戦できたことや、体験プログラムへ参加できた喜びが多く聞かれました。保護者からも、事業へ賛同する意見が寄せられました。

また、親子、家族で過ごす時間が取れてよかったという声もありました。

一方、学校関係者からは、参加希望児童の取りまとめや、チケットの配布など業務の多さに対する指摘をいただきました。学校の負担感を減らしていくために、業務を検討、改善していくこと、事業のねらいや児童の様子などを知ってもらうために、さらに情報を発信していくこと、また、気軽に観戦できる環境を求める県民のスポーツニーズにこたえていくことが必要になります。さらに、他の競技でも同様の事業を行ってほしいという参加者の声も聞かれました。

この事業は、県内の児童が、「パスポート」を持ってスタジアムやアリーナへ行き、いつでも、好きな種目を、気軽に観戦できるような環境になってほしい、という願いがあり、名づけられております。事業を継続していきながら、他のトップ・プロスポーツ団体との連携を深めてまいります。

なお、千葉ロッテマリーンズとの連携事業の詳しい様子は、別添資料「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト2015実施報告書」を御覧ください。

事務局

続きまして、オリンピック教育について、御説明いたします。平成21年4月に新学習指導要領が公示され、文化としてのスポーツ・オリンピック・ムーブメントの意義について学ぶことが明確化されました。では、オリンピック・ムーブメントとは、何でしょうか。・青少年の健全育成・世界平和の実現これらを実現させるためにIOCが中心となって行う活動のことです。

次に、県の取り組みについて御説明いたします。県では、若い世代にも、オリンピックの意義や価値について啓発していこうと考えています。学校教育においては、小学校6学年・中学校3学年・高等学校で学習します。中学3年生では、オリンピックの果たす役割や意義について学習します。そこで、学習が始まる前段階として、中学2年生を対象に日本オリンピック委員会が主催する「JOCオリンピック教室」を開催することとなりました。オリンピック教室は、オリンピックに出場した選手(オリンピック)が教師役となり、運動と座学の授業を行います。平成27年度は、先行実施ということで、船橋市立海神中学校で実施しました。

では、その実践を紹介します。オリンピックは、3名でした。伊藤華英氏(水泳・競泳)、鶴岡剣太郎氏(スキー・スノーボード)、小口貴久氏(リュージュ)です。伊藤先生の「座学」の授業です。生徒達は伊藤先生

の説明に、真剣に耳を傾けていました。また、この写真は、クラス全員が大なわとびで、何回跳べるか挑戦しています。

鶴岡先生の「座学」の授業です。鶴岡先生のトリノオリンピックでの経験談に興味津々でした。鶴岡先生の「運動」の授業です。なわとびの8の字跳びで、グループ毎に回数を競いました。

小口先生の「座学」の授業です。「エクセレント」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つのテーマにそってお話をされました。オリンピック教室を体験した生徒の感想です。・頑張ることの大事さ・強い心を持ちたい・周りの人の支えに感謝・自分も何かしら関わりたいという感想が多くありました。このように生徒達にとって、大変価値のある学習になりました。

そこで、平成28年度は、千葉市、葛南、東葛飾、北総、東上総、南房総の6つの学校でオリンピック教室を実施する予定であります。実施校として、こんな学校を推薦いただくようお願いしています。・学校の適格性・学校の活動状況・教育効果の計画これらを考慮し、3月下旬までに実施校を決定していきたいと考えています。今後の課題として、・近隣の学校や地域への普及・推進・JOCとのさらなる連携・オリンピック開催後の推進について検討していきたいと思っております。

事務局

オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業及び、千葉県開催競技の普及強化について説明いたします。

一人でも多く東京オリンピックに千葉県選手を輩出するために始めましたこの事業は、今年度、パラリンピック部分を加え「東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業」として、新しくスタートいたしました。写真は指定証授与式の模様です。

具体的な27年度の実施状況ですが、まずは、オリンピック部分です。今年度は、基礎強化で、指定選手218名、指定団体13団体、特別強化支援は、指定選手126名を指定しました。基礎強化、特別強化の事業について、表に掲載したとおり、「海外遠征」、「強化合宿」、「競技用具の整備」、「外部指導者活用」等充実した活動が報告されております。

続いてパラリンピック部分です。本年度は、特別強化指定選手40名、基礎強化指定選手50名、基礎強化指定団体3団体を指定しました。県内に競技団体のない競技もあり、多くは、競技用具の整備事業において支援を希望しておりました。また、特別強化指定選手においては、パラリンピック出場に向けて自身の世界ランキングを上げるため、頻りに国内遠征・海外遠征を実施しました。以上が事業の内容ですが、次に千葉県開催の競技の普及・強化について状況を説明いたします。

最初にオリンピック3競技ですが、普及・周知の目的で、政策企画課がイベントを企画いたしました。11月18日に4者プラス3競技団体が会議を持ち、具体的な内容や場所等が検討され、実施の運びとなりました。体育課として、実施内容の提案や政策企画課が作成した広報チラシを、各関係機関に配付をするなど協力をいたしました。

具体的な内容ですが、まず、フェンシング競技です、2月21日、イオンモール幕張新都心で行われました。ロンドンオリンピック銀メダリストの三宅選手を始め、3名のゲストを招き、フェンシング競技の見どころや体験会を実施しました。2回のイベントには、合計で650名の参加者があり、そのうち120名の子供たちが体験しました。

続いてレスリングですが、1月16日に県立松戸南高校で行われました。吉田義勝氏、東京オリンピック金メダリストを始め、6名の方に、レスリングの魅力や醍醐味を紹介していただき、実践を交えた体験会を開きました。約400名が参加し、その内183名が体験を行いました。大変盛り上がったと聞いています。

最後にテコンドーですが、オリンピック銅メダリストの岡本選手を始め、本県の強化指定選手含む3名の選手が中心となり、2月6日、三井アウトレットパーク木更津で行われました。DVDにより実際の試合の様子を見てもらったり、テコンドーの紹介や体験練習等を実施したりして、魅力を伝えました。2回

のイベントに約300名が参加し、そのうち50名が体験いたしました。

さらに、この3競技に千葉県から選手が出場することになれば、大会が大きく盛り上がりと考えられます。何とか普及・強化につなげていきたいと考えているところです。まずは現状を御覧ください。27年度、県内の高等学校の部活動数及び人数です。いずれの競技も盛んであるとは言えません。レスリングは、高校の女子部員はゼロとなっています。テコンドーについては部活動が存在しておりません。右に、この事業で指定している強化選手人数をのせてありますが、御覧のとおりです。テコンドーは、競技団体から4名推薦をいただいている状況です。参考として、左に本県出身のオリンピックを掲載しています。

普及・強化ですが、1つ目は、先ほどのような周知・体験イベントに体育課として協力をしていきたいと考えております。2つ目は、先ほどのイベントでも配らせていただいているところですが、それぞれの競技の練習拠点として、地域で行われている教室やクラブを紹介したチラシを配布して、底辺の拡大に協力したいと考えています。右に、紹介したジュニア練習拠点の主なものを載せてあります。3つ目に、来年度はこの事業の中で、3競技に対して手厚い支援をしていきたいと考えております。内容については、今後、競技団体と詰めていきたいと考えております。

続きまして、パラリンピック4競技の普及・周知ですが、現在、県内に競技団体が存在しない、車いすフェンシング・テコンドーについては、エキシビション等の開催、また県内に選手が存在しているシッティングバレーボール・ゴールボールについては、スポーツ教室等の開催を政策企画課が計画しているところです。27年度、この4競技に強化指定選手はおりませんが、この事業の中で、ゴールボール競技においては用器具の整備としてゴールを購入いたしました。また、シッティングバレーボールは、県内に有力チームが存在していることから、来年度、特別強化に2名の推薦が上がっている状況があります。今後、強化活動に、つなげていきたいと考えております。

議長 委員の中に、エキスパートがおりますので意見を聞きましょう。

委員 「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」は、球団だけではできない事業でして、体育課の方に大変お世話になりました。ありがとうございます。2年間やって「初めてプロ野球を見ました」「楽しかった」という声をたくさんいただきました。年間来場の4割はリピーターです。残りの6割は年に1、2回や初めてという方ですが、この取組の期間は、後者が大幅に増えました。プロスポーツにふれ、親しむことのできる機会になったのではないかと考えます。マリーンズで始めたことが今年、バスケットのジェッツに広がりました。千葉県のほかのプロスポーツであるジェフやレイソルなどにも広がってほしいと思います。

議長 続いて、オリンピック・ムーブメントについて、どうですか。

委員 先ほど、御報告していただいた通り、今年度千葉県でははじめてとなるオリンピック教室を、船橋市の海神中学校で実施させていただきました。体育課の皆様にもご協力を頂きありがとうございました。また、昨年この会議で、2020年の東京大会が決定したこともあり、この機会に、オリンピック・パラリンピック教育に力を入れて頂きたいとお願いしておりました。その時点では、県内でオリンピック・パラリンピックの競技が実際に開催できるとは思っていませんでしたが、正式に開催地に決定し、直接関われる機会が出来たことは素晴らしいことだと思います。今後は、開催自治体として、より一層、オリンピック・パラリンピック教育の重要性を感じていただきながら、より多くの方々に伝えていただきたいと思います。

議長 オリンピック教室は、全国でいくつくらい取り組んでいるのですか。

委員 今年度は全国26校で実施しました。来年度以降、実施校数を拡大していく予定です。

議長 東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業についてはいかがですか。

委員 オリピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業につきましては、私の指導している選手も含めて大変お世話になっています。ただ、トップ選手だけがレベルが上がってゆくことがすべてだとは考えていません。医療とスポーツの関係も含めて、将来的にはオリンピック・パラリンピックアスリート強化選手の活躍が、障害者にとっても身近に感じて行けるような施策も増やしていただけるとありがたいです。

議長 それでは、続きまして、第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」の策定について、事務局お願いします。

事務局 それでは、資料3の11ページから15ページを使って御説明いたします。まずは、11ページの上段を御覧ください。

本計画の位置づけとしましては、スポーツ基本法第10条第1項の規定により、県教育委員会が国のスポーツ基本計画を参酌して策定する「地方スポーツ推進計画」にあたります。

また、県の体育・スポーツ振興条例第3条に規定する総合的かつ計画的な施策を策定した計画になることを確認させていただきます。12ページを御覧ください。

1の「本計画の期間」としましては、平成29年度から平成33年度までの5年間といたします。

2の「策定の方針」としましては、「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」また、加えて、「千葉県総合計画」、「千葉県教育振興基本計画」と連携した計画を策定することになります。さらには、関係各課所管の計画との関連も考慮に入れながら進めることになります。

13ページを御覧ください。これは、「スポーツ基本計画」パンフレットの抜粋です。「国のスポーツ基本計画」では、平成24年度からの10年を見据えて、7つの政策目標を設定し基本方針としています。本県の第11次推進計画もこれに対応した柱の構成となっております。したがって、12次推進計画の策定に際しては、現行の骨子を基本的に踏襲することとしたいと思います。

12ページにお戻りください。また、策定に際し、前回と同様、「パブリックコメント」を実施して、県民からの意見を求めることとします。なお、「国のスポーツ基本計画を参酌して」となっていますが、平成28年度中に後期計画が策定される予定となっております。この策定状況を注視しつつ、進めていく必要があると考えております。また、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催され、さらに、オリンピック3競技、パラリンピック4競技が幕張メッセで開催されることとなります。この国際的イベントの成功に向けた取組はもちろんのことでありますが、「その後の本県におけるスポーツ推進の在り方」を見据えた計画を策定してまいりたいと考えています。

3の構成（案）としましては、本県の「千葉県教育振興基本計画」を参考に、現在、検討しております。

「Ⅰ 計画策定の基本的な考え方」として策定の趣旨や期間を、「Ⅱ 千葉県の体育・スポーツの目指す姿」として第11次推進計画の評価を踏まえつつ、現状・課題・目指す姿を、「Ⅲ 施策と重点的な取組」として柱に沿った施策と具体的な取組を、最後に、「Ⅳ 計画の推進に当たって」として本計画の進行管理に関する内容を内容として、この4部構成で策定したいと考えています。なお、「Ⅲ 施策と重点的な取組」についてですが、先ほど説明しました方針に基づき、第11次推進計画の基本構成を踏襲しつつ、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を契機としたスポーツの推進に係る柱を加えて構成したいと考えております。

本日は、4部構成とすること、また、基本的な構成は第11次推進計画を踏襲し、オリンピック・パラリンピックに係る柱を1つ加えて、6つの柱とすることについて、御意見をいただければと考えております。

次に、4のプロセスについて御説明します。11ページ下段を御覧ください。これは、策定体制を表したものです。第11次推進計画の策定の際に、「策定検討会議」が設置されております。今回も、関係部局との

連携の下、より実効性の高い計画の策定を目指し、設置要綱の一部を改正した上で、この会議を中心に検討してまいります。また、来年度は本審議会で、骨子・計画案について専門的な見地から御意見を聴取させていただきながら、最終案作成段階で、パブリックコメントにより県民からの意見を伺った上で、教育委員会会議で審議いただき策定するプロセスを取ります。

次に、5の策定スケジュールを御説明します。14ページを御覧ください。今後、策定検討会議・ワーキンググループ会議を開催し、検討してまいりたいと考えております。来年度は、本審議会を3回開催する予定であります。7月の第1回審議会において「骨子」について、11月の第2回審議会において「計画(案)」について、そして、2月の第3回審議会において「最終案」について、御意見を伺うこととしております。最終的には、2月の定例教育委員会会議での決議を目標としております。

しかしながら、国の基本計画の進捗状況や内容によっては、本計画の策定に影響が出ることも考えられます。スケジュールの変更も想定しておく必要があると考えております。

15ページは、現行から次期推進計画を取り巻く状況を、「県の動き」、「国の動き」に「オリンピック関連」を加えて、経緯と見通しとしてまとめたものです。参考にいただければと思います。

説明は、以上となります。

議長

説明をお聞きして何かございますか。12ページの構成案について特に何かございますか。この場ですぐということではなく、何かございましたら、事務局のほうへ御意見をおよせください。今日のところは中身をよく確認ください。

最後の説明になります。運動部活動を活用した地域との連携について事務局より説明をお願いします。

事務局

体育課では、現行計画の更なる推進、また、次期計画の策定を見据えながら、新たな取り組みを検討しています。この運動部活動プラスワンプロジェクトもその一つであります。

本日は、現在検討している事業について御説明させていただき、委員の皆様からその方向性や内容など、多方面からの御意見を頂戴できればと考えております。

それでは、資料16ページを御覧ください。

趣旨についてですが、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催は、これからのスポーツ推進の大きな転換期となり、社会の中でスポーツに対する期待は、益々高まっていくものと思われれます。

また、今後のスポーツ推進には新たな枠組みづくりが必要であり、その担い手の一つとして、わが国の風土に根付き、本県では約3,800部、68,000名の高校生が加盟する運動部活動に大きな可能性が期待できると考えております。

本事業は、スポーツを活用した地域の活力づくりに運動部活動からアプローチし、貢献することができるよう計画した事業であります。

また、この事業を展開することにより、各学校の特色が地域に広まり、開かれた学校づくりの一助となるとともに、将来、この活動に関わった生徒が地域におけるスポーツリーダーとなることを期待しています。

事業内容としましては、運動部活動を単位として、通常のスポーツ活動にプラスして、部員や指導者が地域の各種団体と連携し取り組むことにより、スポーツによる地域の活性化に貢献することを目指すものです。

具体的には、幼稚園や小学校・中学校、特別支援学校や障害者スポーツ団体、総合型地域スポーツクラブ、近隣自治会等との交流や行事への協力を想定しています。

現在も、多くの運動部活動で、自主的に同様の活動が行われていると思われれます。本事業の意図するところは、県内高等学校の全運動部活動が、それぞれの実状に合わせて、地域貢献に取り組むことにより、スポーツを通じた地域の活性化が進み、高校生が核となった「スポーツ立県ちば」の実現を目指すものです。

また、その大きな担い手となる運動部活動に付加価値が加わり、新しい運動部活動の在り方を創り出すきっかけとなることを期待しています。以上で説明を終わります。

議長

ただいまの説明について、御意見はございますか。

これは、他の都道府県でもやっていることなのですか。

事務局 新しい取り組みであります。

議長 大変素晴らしい構想であります。実現に向けて副会長に意見をいただきたく存じます。

委員 新たなスポーツのかかわりとして大変有意義なプロジェクトとして期待しております。

全体を通して、感じたことは子どもに焦点を当てていることを発展させ、現職の先生方に体験をしてもらうことも価値があると感じています。オリンピックを実際に知らない先生方の世代に対してのかかわりも必要ではないでしょうか。たとえば、ちば夢チャレンジの中でも先生が教わったり、オリンピックから教わったり、その体験を子どもたちに伝えるなど千葉県全体に浸透したスポーツの振興につながるのではないのでしょうか。

議長 高体連会長いかがでしょうか。

委員 とても良いことだと思います。今までは各学校部活動独自に行っていたことをこのように県全体に広めて行うことは意義深いです。とかく閉鎖的なつながりだけになってしまう現場の顧問と生徒にとって、開放され地域の方に注目されるのはいいことであります。

議長 中体連会長いかがですか。

委員 中学校では顧問の勤務時間の長さが問題になっています。高校においてもそのあたりの問題を解消していく必要があるのですが、やれる範囲で地域とともに広めて行くことは必要だと思います。

議長 そのとおり。強制ではなく、自発性が大切のように思われます。他にいかがでしょうか。

委員 非常に意味のある活動だと思います。ロッテマリーンズの支配下選手における話ですが、ファンサービスや、地域交流活動の話をした際に、積極的に理解し活動してくれる選手がいる一方で、なかなか踏み出せない選手もいます。今まで、野球漬けになってしまったことが影響しているのかもしれませんが。そのようなことからとても良い構想であると思います。

いい選手を育てると同時に、千葉県として指導者の人材を育てる意味で大変素晴らしいことだと考え、大いに期待いたします。

議長 短い時間でありましたがすべての委員から意見をいただきました。

特にないようですので、以上で、議長の任を解かせていただきます。進行を事務局にお返しします。

事務局 長時間にわたり、進行していただき、会長ありがとうございました。また、委員のみなさま方、貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。

それでは、推進審議員の改選について御説明いたします。皆様の任期は、平成28年6月22日までとなっております。来年度は、改選期であります。来年度の審議会は、先ほど説明させていただきましたとおり、第12次「スポーツ推進計画」の策定にあたり、専門的な見地から御意見を頂戴するという、重要な役割を担っていただくこととなります。

つきましては、現行推進計画の成果や課題について精通されている皆様に、引き続き委員をお願いし、専門的立場から御意見を頂戴できればと考えておりますので、御理解・御協力いただきますようお願いいたします。また就任の依頼に際しましては、改めて事務局のほうから御連絡させていただきます。

事務局 ここで、教育次長から、お礼を申し上げます。

教育次長 長時間にわたり委員の皆様にご貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。今後とも引き続き、よろしくお願いいたします。

事務局 本日の議事録につきましては、後日、委員の皆様へ、郵送かメールで送らせていただきます。お手数をおかけいたしますが、御確認をお願いします。

 次回、平成28年度第1回目の審議会は、7月1日（金）を予定しております。場所は、今回と同じスポーツ科学センターです。

 それでは、以上をもちまして、本日の審議会の全てを終了いたします。たくさんの貴重な御意見、誠にありがとうございました。